２０１０／１２／０５　　礼拝メッセージ　　近藤修司　牧師

主　　題：宣教＝福音を携えて出て行きなさい
聖書箇所：ローマ人への手紙　１０章１４－１７節

今日もローマ人への手紙１０章１４節のところから見て行きましょう。**「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる。」**（１０：１３）と、そのようにパウロは私たちに教えてくれました。パウロは救いは備えられている、もう神によって備えられたと言います。だれでも主の御名を呼び求めるならその人は救いに与ると、こんなにすばらしい知らせを神が私たちに与えてくださいました。そして、私たちはその知らせを受け入れることによって救いに与ったのです。でも、私たちが考えなければいけないこと、私たちが覚えなければいけないことは、このようなすばらしい知らせをまだ知らずにいる人々が、私たちの周りには溢れているというこの現実です。パウロは、私たちが今日学ぼうとしている聖書の箇所から、罪人が救いに与るためには、まず、救いのメッセージを語る人が必要だということを言います。その必要性を彼は論じる訳です。

「主の御名を呼び求める」ことを思い出してください。これは主イエスを唯一真の神と信じて礼拝するということでした。主イエス・キリストの主権を、主イエス・キリストの御力を、彼の栄光を心から崇めることでした。このゴールに到達するために必要なことをパウロはここで上げるのです。

◎「主の御名を呼び求める」というゴールに到達するために必要なこと　　１４－１５ａ節

１４－１５節を見てください。**「しかし、信じたことのない方を、どうして呼び求めることができるでしょう。聞いたことのない方を、どうして信じることができるでしょう。宣べ伝える人がなくて、どうして聞くことができるでしょう。:15 遣わされなくては、どうして宣べ伝えることができるでしょう。」**。パウロはこのように言います。「呼び求める」ために、

（１）「主を信じること」が不可欠

人が神に呼び求める、礼拝するにはまず主を信じていることが必要です。イエスを信じていなければ礼拝をささげることはできません。「信じる」ためには、

（２）「福音を聞くこと」が不可欠

主を信じるためには福音を聞かなければならない。「福音を聞く」ためには、

（３）だれかが福音を「宣べ伝えること」が不可欠

そして、宣べ伝えるためには、福音を語るためには、

（４）「遣われること」が不可欠

救いに関するパウロの「論理の展開」というものをここに記した後、その結論を１７節で述べています。これはまた後で見ます。つまり、ここでパウロが言いたかったことは、だれでも救われるためには、神の真理を知ることが必要であるということ、そして、その真理とはキリストについてのみことばであるということです。その真理を知るためには、この救いに与るためには、神の真理を語ること、神の真理を語る人が必要なのです。ですから、パウロはこの１４節から１７節の中で、私たちに三つのことを教えます。まず、彼はメッセンジャーが必要であること、そして、もうすでにメッセンジャーは派遣されたこと、そして、最後にそのメッセンジャーの務めについて教えるのです。ごいっしょにそれらを見て行きましょう。

☆「真理を語る人」について

Ａ．メッセンジャーの必要性　：　語る人が必要　　１４－１５ａ節

「信仰は聞くことから始まり、」（１７節）とあります。皆さんもそうであるように、私たちはこの救いを受け入れるためには、この救いのメッセージを聞き、そのメッセージを理解することが必要です。だれかが明確にあなたに救いのメッセージを語ってくれた、だから、私たちは信じたのです。もちろん、メッセージを何度聞いても理解できなかった私たちに、神が働いてくださいました。しかし、神が人を送って、その人が私たちに時間を取ってイエス・キリストのこのすばらしい救いを教えてくれます。そして、私たちはそれを理解して受け入れるのです。

《例》エチオピア人の宦官とピリポ　　使徒の働き８：２６－４０

思い出しませんか？ピリポとエチオピア人の宦官の話です。使徒の働き８章２６－４０節に出て来る記事ですが、このエチオピアの宦官はエルサレムで礼拝をした後、エチオピアへと戻っているその帰途にありました。そのときに神がピリポを遣わして、彼といっしょに行くようにと導くのです。ピリポが近づくと、この宦官がある聖書のみことばを読んでいるのが聞こえました。それはイザヤ書５３章のみ

ことばでした。ピリポは宦官にこのような質問をします。８：３０**「あなたは、読んでいることが、わかりますか。」…**」、すると、宦官はこのように答えます。３１節**「導く人がなければ、どうしてわかりましょう。」**と、**「そして、馬車に乗っていっしょにすわるように、ピリポに頼んだ。」**のです。彼は読んでいた聖書の箇所について質問をするのです。３４節**「預言者はだれについて、こう言っているのですか。どうか教えてください。自分についてですか。それとも、だれかほかの人についてですか。」**、つまり、読んでいるけれど分からないから教えて欲しいというわけです。そこで、３５－３６節**「ピリポは口を開き、この聖句から始めて、イエスのことを彼に宣べ伝えた。:36 道を進んで行くうちに、水のある所に来たので、宦官は言った。「ご覧なさい。水があります。私がバプテスマを受けるのに、何かさしつかえがあるでしょうか。」**、彼がイエスを心で信じて、そして、喜んで主に従う者と生まれ変わったゆえに、神の命令であるバブテスマを喜んで受けようとしたのです。この行為は彼が救われたことの証明です。この宦官はみことばを読み、ピリポから説明を聞き、信仰へと至ったのです。

ですから、確かに、あなたにもだれかが神のすばらしい救いの説明をしてくれたのです。このように神の救いのメッセージを伝える人々、語る人々が必要なのです。もちろん、この責任、務めは私たちイエスを信じる信仰者すべてに与えられています。与えられている務めです。「大命令」と言われる命令を見たときに、すべての信仰者に対して「出て行ってすべての人々を弟子とするように」と命じています。私たちの務めは、出て行ってキリストのこのすばらしい救いのメッセージを伝え、彼らが信仰に導かれたなら、彼らを訓練して、そして、彼らが成長し、彼らがキリストを証する者へと育てて行くことです。そのような命令をいただいています。ある人たちはこの命令を聞いたときに、「私はまだ信仰が浅いから」とか「詳しいことが分からない」といろいろなことを言うかも知れません。

《例》悪霊に憑かれていたレギオンのいやし　ルカ８：２６－３９

でも、思い出してください。あのレギオンという悪霊に憑かれていた一人の人物のことを。ガリラヤ湖畔での出来事でした。悪霊が追い出されて普通に戻ったこの一人の男性がイエスに**「お供をしたい」**と申し入れたとき、イエスはこのように言われました。８：３９**「家に帰って、神があなたにどんなに大きなことをしてくださったかを、話して聞かせなさい。」**と。わたしの後をついて来なくていい、あなたがしなければいけないことは、自分の町に帰って、神がどんなにすばらしいことをしてくれたのかを人々に伝えることですと言われたのです。立派なことに、この男性はその通りにしました。**「そこで彼は出て行って、イエスが自分にどんなに大きなことをしてくださったかを、町中に言い広めた。」**とあります。明らかなことは、イエスは神学的な話をしたのでないということです。彼はイエスがどんなに私をあわれんでこのようなすばらしい救いを与えてくれたかを語ったのです。ですから当然、あなたも神の恵みによって救われたのなら、あなたにもそのすばらしい救いを伝えるという責任があることはお分かりでしょう。イエス・キリストを信じたときに、その思いが皆さんの心の中に起こったはずです。

私は今でも覚えています。イエスを信じた後、正直に言って、そのときはまだ分かったのかどうかよく分からなかった。でも、自転車に乗って帰る途中に、今日、自分がしたことを考えたときに、救いをいただいたというその真理に対して私は非常な喜びを持ちました。教会を出るときにはだれにも言わないでおこうと思ったのに、家に帰ると、家族にキリストのその救いのことを話しました。もちろん、母は「その話はしないで。それはあなたの信仰だから。」と言われたのを覚えています。でも、語らなければいけないから語ったのではなく、語りたいから語ったのです。なぜなら、救いというすばらしい賜物を神が私にくださったからです。「私の罪は赦された」、このメッセージは救われた者しか語れないし、救われた者が当然語るメッセージではないですか？

ですから当然、私たちはだれかから命じられたからとか、大命令だからしなければいけないのではなくて、私たちは救いを感謝している者として、その感謝は「伝える」という行動となって出て来るのです。それはもう私たちが良く分かっていることです。でも、このみことばを見たときに、今日のテキストが言っていることは、そのように私たちすべての責任というよりも、もちろん、それも含まれるでしょうが、ここでは、特に、神によって特別にこのメッセージを伝える者として選ばれた者たちのことです。「宣べ伝える人」。すなわち、神のメッセージを語るために特別に召された人のことです。なぜなら、１４節に**「宣べ伝える人が」**と書かれているからです。

実は、原語には「宣べ伝える人」とは書かれていません。「宣べ伝える」という動詞が使われているのですが、文法的に言うと、これはただ単に「人」ということを言いたかったのではなくて、その人の行動を表わすような文法が使われているのです。つまり、パウロはここで「宣べ伝える」という行為を行なっている人のことを言ったのです。ですから、これを訳した人は、敢えてここに「人」ということばを付け加えているのです。「宣べ伝える人」、神から託されたメッセージを出て行って宣べ伝えている人、パウロが敢えてそのような人のことを上げたのは、そのように特別に神から召された人々がいるからです。

私たちも「宣教師」と言われている人たちが世界中でいろいろな働きをしていることを知っています。確かに、神はある人々を特別にお用いなります。このみことばを書いたパウロ自身もそうでした。アグリッパ王の前に立ったときに、彼は自分自身が体験したことを証しました。ダマスコに行く途中に復活の主にあったパウロは、アグリッパ王の前でこのような証をしています。使徒２６：１６**「起き上がって、自分の足で立ちなさい。わたしがあなたに現われたのは、あなたが見たこと、また、これから後わたしがあなたに現われて示そうとすることについて、あなたを奉仕者、また証人に任命するためである。」**と、このように神がパウロに告げられたのです。「わたしはあなたを証人に任命した。あなたを奉仕者に任命した。」と神がそのように特別にパウロに働いて、そして、彼を特別な働きに用いると言われたのです。

「宣教師」、先ほども話したように、世界中でたくさんの宣教師がそのような働きをしています。私が宣教師としてグアム島に派遣されたときに、いつも思っていたことは「宣教師」というタイトルが付いていることでした。もちろん、神がそのように召してくださって、私を宣教師としてグアム島に派遣してくださったのですから、いろいろなことがあっても、主が召してくださったというその確信によって、ギブアップすることなくその働きに継続して邁進することができました。でも、「キリストの福音を語る」ことは、私たちみながしなければいけないことであって、「宣教師」というタイトルがついている人だけがすることではない、みながすることだと思いながら過ごしていたことを覚えています。宣教師はたくさんいます。そのように召された人たちは…。でも、よく考えると、皆さん一人ひとりも、この救いに与ったということは、神が特別に召されたのです。

メッセンジャーが必要である、この神のメッセージを語る者たちが必要であると教えたパウロは１５節の後半を見ると、二つ目のことを教えています。

Ｂ．メッセンジャーの派遣　　１５ｂ節

語る者の派遣です。１５節**「次のように書かれているとおりです。『良いことの知らせを伝える人々の足は、なんとりっぱでしょう。』」**とあります。この『』の中は旧約聖書のみことばが引用されています。イザヤ書５２章７節のみことばです。**「良い知らせを伝える者の足は山々の上にあって、なんと美しいことよ。」**何のことでしょう？メッセージを伝える人のその二本の足が立派だ、美しいということでしょうか？そうではありません。どちらかと言うと、メッセージに関することです。なぜなら、メッセージを待ち望んでいる人にとって、そのメッセージほどすばらしいものはないからです。イザヤ書５２章のみことばを見ると、ここはバビロンに捕囚されているイスラエルに対する神からの慰めのメッセージが記されています。イスラエルは様々な捕囚を経験しました。様々な苦しみを経験しました。この５２章のみことばを見ると、そのイスラエルの経験がこのように記されています。

●エジプト＆アッシリヤ

５２：４**「まことに神である主がこう仰せられる。「わたしの民は昔、エジプトに下って行ってそこに寄留した。またアッシリヤ人がゆえなく彼らを苦しめた。」**、イスラエルがエジプトで苦しんだ様子です。そして、アッシリヤによって捕囚の目にあった様子、そのことがここに記されています。

●バビロン

５節**「さあ、今、ここでわたしは何をしよう。――主の御告げ。―― わたしの民はただで奪い取られ、彼らを支配する者たちはわめいている。――主の御告げ。――また、わたしの名は一日中絶えず侮られている。」**、もう過ぎ去ったエジプトのことでもアッシリヤのことでもありません。彼らが経験しているバビロンの捕囚のことです。この後を見て行くと、イスラエルの民がこの捕囚から解放されるというメッセージを聞きます。そして、７－８節のみことばに記されていることは、救世主がシオンに戻るときのことです。この救世主がもたらす支配は、その地に平和を与え、そして、人々はそのとき喜びの賛美をささげると、そのとき、主の御力が示されるということを言うのです。ですから、６節を見てください。**「それゆえ、わたしの民はわたしの名を知るようになる。その日、『ここにわたしがいる。』と告げる者がわたしであることを知るようになる。」**とあります。今話したように、救世主がシオンに来られます。そして、そこに平和をもたらされます。人々はそれを見て喜び賛美をささげるのです。

そして、７節**「良い知らせを伝える者の足は山々の上にあって、なんと美しいことよ。平和を告げ知らせ、幸いな良い知らせを伝え、救いを告げ知らせ、「あなたの神が王となる。」とシオンに言う者の足は。」**と、このようなすばらしいメッセージを伝える者、その人の足はすばらしい、それよりも、その人が伝えるメッセージがすばらしいと言います。ですから、その後の９－１０節を見ても、**「エルサレムの廃墟よ。共に大声をあげて喜び歌え。主がその民を慰め、エルサレムを贖われたから。:10 主はすべての国々の目の前に、聖なる御腕を現わした。地の果て果てもみな、私たちの神の救いを見る。」**とあり、彼らが賛美しているのは「神」です。神のすばらしいみわざです。メッセンジャーがそのメッセージを告げたのです。そして、それを聞いた人々は喜んだのです。

ですから、パウロはそのイザヤ書のみことばを知っていて、そして、そのみことばを彼はここで適応するのです。先ほど見たイザヤ書の中では、この補囚からの解放が約束されていました。パウロはその補囚からの解放がすばらしいことは分かっている、けれども、それ以上にすばらしい救いがあると言うのです。救世主イエスによる究極的な救いです。そのことをここで教えようとしたのです。**『良いことの知らせを伝える人々の足は、なんとりっぱでしょう。』**と、彼らが伝えるメッセージ、それは捕囚からの解放ではないのです。罪からの解放です。救いのメッセージです。捕囚からの解放のメッセージを告げた者たちをこの様に称えたように、罪からの救いのメッセージを伝える者たちもこの様に称えるのです。それは、そのメッセージが余りにもすばらしいメッセージだったからです。

覚えておきたいことは、だれがこのメッセンジャーを派遣したのかということです。それは神ご自身です。先ほども見たように、神はパウロをお使いになりました。ヨハネ２０：２１には**「イエスはもう一度、彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わしたように、わたしもあなたがたを遣わします。」**と記されています。復活の主が現われたそのところにはトマスはいませんでした。しかし、そこで復活の主が弟子たちに告げられたのです。**「父がわたしを遣わしたように、わたしもあなたがたを遣わします。」**と。ですから、この使徒たちは神から特別な力をいただいて出て行くのです。

神がメッセンジャーを遣わしたのです。みことばを聞くことが必要である罪人に、神ご自身がメッセンジャーを送られた。すごいことだと思いませんか？救いが必要である私たちのために神は救い主を備えてくださった。それだけでなく、救いが必要である私たちにこのメッセージが届くように、神はメッセンジャーを立て、そのメッセンジャーを送ってくださったのです。そして、私たちはその恵みによって、このすばらしい救いのメッセージを聞くことが出来たのです。

Ｃ．メッセンジャーの務め　　１６－１７節

これには二つのことがあります。一つは忠実に働くことであり、もう一つは忠実に語ることです。

１．忠実に働く　：　主への忠誠　　１６節

１６節**「しかし、すべての人が福音に従ったのではありません。「主よ。だれが私たちの知らせを信じましたか。」とイザヤは言っています。」**、すばらしい救いのメッセージを今聞いた後、私たちは次に非常に悲しいニュースを聞くのです。パウロは喜びの後、今度は悲劇を語るのです。それはこのすばらしい救いのメッセージをみなが信じる訳ではない、拒む人たちがいるという事実です。この１６節のみことばも同じようにイザヤ書から引用されています。５３：１からの引用です。**「私たちの聞いたことを、だれが信じたか。主の御腕は、だれに現われたのか。」**と、つまり、ここにはイスラエルの不信仰が書かれているのです。パウロは１６節から再び、異邦人もそうですが、特に、イスラエルの人たちの不信仰を記しています。というのは、イザヤ書５３章は皆さんもご存じのように、イエス・キリストの救いのみわざ、贖いのみわざが預言されているのです。ですから、この４節から見て行くと、そこにはこの救世主は私たち罪人の身代わりとなって死んでくれるということが預言されています。**「:4 まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みをになった。だが、私たちは思った。彼は罰せられ、神に打たれ、苦しめられたのだと。:5 しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。:6 私たちはみな、羊のようにさまよい、おのおの、自分かってな道に向かって行った。しかし、主は、私たちのすべての咎を彼に負わせた。:7 彼は痛めつけられた。彼は苦しんだが、口を開かない。ほふり場に引かれて行く小羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない。:8 しいたげと、さばきによって、彼は取り去られた。彼の時代の者で、だれが思ったことだろう。彼がわたしの民のそむきの罪のために打たれ、生ける者の地から絶たれたことを。:9 彼の墓は悪者どもとともに設けられ、彼は富む者とともに葬られた。彼は暴虐を行なわず、その口に欺きはなかったが。:10 しかし、彼を砕いて、痛めることは主のみこころであった。…」**と、このようにみことばを読むなら、約束された救世主は私たちを罪から救い出してくださる、そのためにご自分のいのちを私たちのために犠牲にしてくださるという、そのことは明らかです。しかも、１０節のみことばを見ると救世主の復活のことが記されています。**「しかし、彼を砕いて、痛めることは主のみこころであった。もし彼が、自分のいのちを罪過のためのいけにえとするなら、彼は末長く、子孫を見ることができ、主のみこころは彼によって成し遂げられる。」**、**「子孫を見ることができ」**、なぜですか？よみがえるからです。

イザヤ書５３章は、私たちに明確に、約束された救い主がどのようにして私たちに救いをもたらすのかを教えてくれています。そのメッセージが記されているその箇所を彼らは学んでいても分からないのです。このようなすばらしい贖い主、救い主が来られると言っても、彼らはその救いを信じようとしないのです。悲しいことに、私たちが見て来たように、イスラエルは神が備えてくださったこの救い主を受け入れることなく「彼につまずいた」のです。ですから、パウロは言うのです。**「すべての人が、福音に従ったのではありません。」**、どれ程多くの人たちが、このようなすばらしい神の約束を聞いていながらその救いを拒み続けていることかと。

さて、皆さんに見ていただきたいのは、この１６節で**「しかし、すべての人が福音に従ったのではありません。」**と書かれているところです。ここで言っていることは明らかに救いのことです。でも、パウロは「救い」と言わずに「従ったのではない」と言っています。**「従った」**ということば、確かに、これはいろいろなものが主に従った、主の命令に従ったと記されています。たとえば、

- **「汚れた霊、悪霊が従った」**：マルコ１：２７**「人々はみな驚いて、互いに論じ合って言った。「これはどうだ。権威のある、新しい教えではないか。汚れた霊をさえ戒められる。すると従うのだ。」**
- **「風と水が従った」**：マルコ４：４１、**「風や湖までが言うことをきくとは、いったいこの方はどういう方なのだろう。」**ルカ８：２５**「風も水も、お命じになれば従うとは、いったいこの方はどういう方なのだろう。」**
- **「桑の木」**：ルカ１７：６**「…この桑の木に、『根こそぎ海の中に植われ。』と言えば、言いつけどおりになるのです。」**
- **奴隷が主人に**：エペソ６：５**「奴隷たちよ。あなたがたは、キリストに従うように、恐れおののいて真心から地上の主人に従いなさい。」**

「従う」ということばはこのように使われるのですが、それだけではありません。皆さんに見ていただきたい箇所は使徒の働き６章７節です。**「こうして神のことばは、ますます広まって行き、エルサレムで、弟子の数が非常にふえて行った。そして、多くの祭司たちが次々に信仰にはいった。」**と、ここに**「信仰にはいった。」**と訳されていることばが、今見ているローマ１０：１６の**「従った」**と同じことばなのです。ですから、この１６節で使われている**「従った」**ということばは、「自然界までが従った」というように使われ、また、使徒６：７では「信仰にはいった」と訳されることばなのです。もう一箇所、ローマ書６：１６－１７をご覧ください。**「あなたがたはこのことを知らないのですか。あなたがたが自分の身をささげて奴隷として<u>服従</u>すれば、その<u>服従</u>する相手の奴隷であって、あるいは罪の奴隷となって死に至り、あるいは<u>従順</u>の奴隷となって義に至るのです。:17 神に感謝すべきことには、あなたがたは、もとは罪の奴隷でしたが、伝えられた教えの規準に心から<u>服従</u>し、」**、この**「服従」「従順」**が同じことばです。ジョン・マッカーサー先生は「この『信仰にはいる』と言うことばは『救われた』ということばと同意語である」と言います。

そうすると、今私たちが見ているこの「従う」、「従順」は「救い」と同じであると、そのような結論を引き出すことができます。そのことが明確に記されている箇所の一つ、ヘブル書５章９節をご覧ください。**「完全な者とされ、彼に従うすべての人々に対して、とこしえの救いを与える者となり、」**とあります。**「完全な者」**とはイエスのことです。主イエスはとこしえの救いを与えることができると言うのです。だれにそれを与えることができるのでしょう？**「彼に従うすべての人々に」**対してです。

前回私たちは、「信仰とは服従である」ということを学びました。私たちが認めようと認めまいと、主イエス･キリストは神であり、主イエス・キリストはすべての主です。すべての被造物がこの方の前にひれ伏します。後にはあのサタンまでが…。たとえ認めなくてもこの事実は変わらないのです。しかし、イエスを信じるということは、この主である方を自らの主として迎え入れることです。なぜなら、イエス・キリストは神であり、イエス・キリストは救い主であり、イエス・キリストは主なのですから。その方を私たちは自らの神として救い主として主として受け入れるのです。言い方を変えるなら、私たちはこのイエス・キリストを自らの主人として従う決心をすることです。それはあなたの考えも、あなたの願いも、あなたの望みも、あなたの夢も、また、あなたを中心にして生きて来たその人生を捨てて、主なる神のみこころに従って行こうとする決心です。なぜなら、それが最善だからです。そのような生き方をする時に神の栄光が現わされるからです。神の栄光を現わして行くためには神のみこころに沿って生きなければいけないのです。そのあるべき生き方の邪魔をするのは自我であり自分です。この世のものです。私たちがそれらを優先するときに、私たちは本来創造された目的、また、救われた目的から外れてしまうのです。ローマ１：５に**「このキリストによって、私たちは恵みと使徒の務めを受けました。それは、御名のためにあらゆる国の人々の中に信仰の従順をもたらすためなのです。」**とある通りです。イエスを信じるということはイエスに従って行く決心であると、私たちはそのことを見ました。

だから、テサロニケ人への手紙第二、１章８節でこのように言います。さばきの座にあって、人々がさばきを受けるときに、彼らがなぜさばかれるのかその理由が記されています。**「そのとき主は、神を知らない人々や、私たちの主イエスの福音に従わない人々に報復されます。」**、**「従わない人々」**、従わないことです。マタイの福音書１９章を見ましょう。１６節からですが、この記事の背景を簡単に説明します。皆さんはもうよくご存じのところです。一人の人がイエスのもとにやって来てこのような質問をしました。１６節**「先生。永遠のいのちを得るためには、どんな良いことをしたらよいのでしょうか。」**、イエスはそれに対して答えをされました。**「…戒めを守りなさい。」:18 彼は「どの戒めですか。」と言った。そこで、イエスは言われた。「殺してはならない。姦淫してはならない。盗んではならない。偽証をしてはならない。:19 父と母を敬え。あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。」:20 この青年はイエスに言った。「そのようなこ**

とはみな、守っております。何がまだ欠けているのでしょうか。」と続きます。そのときにイエスはこのように言われました。２１節「**もし、あなたが完全になりたいなら、帰って、あなたの持ち物を売り払って貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を積むことになります。そのうえで、わたしについて来なさい。**」と。ここで注意をしておいてください。この青年はその教えに従ったかというと「**悲しんで去って行った。**」とあります。イエスに従うこと、ついて行くことを拒んだのです。

そして、２３節からイエスはまた弟子たちにお話になるのですが、２７節を見てください。「**そのとき、ペテロはイエスに答えて言った。「ご覧ください。私たちは、何もかも捨てて、あなたに従ってまいりました。私たちは何がいただけるでしょうか。」**、２８節「**そこで、イエスは彼らに言われた。「まことに、あなたがたに告げます。世が改まって人の子がその栄光の座に着く時、わたしに従って来たあなたがたも十二の座に着いて、イスラエルの十二の部族をさばくのです。**」、今、私たちは「**ついて来なさい。**」という２１節のみことば、「**従ってまいりました。**」という２７節のペテロのことば、そして、「**わたしに従って**」とイエスが言われた２８節のことばを見て来ました。これらの三つはともに同じことばを使っているのです。同じことを言っているのです。イエスがここでペテロに対して言われたことは「**わたしに従って来たあなたがたも**」このような祝福をいただくということです。なぜなら、「従う」ことは「信じる」ことだからです。青年は従いたくなかった、つまり、信じなかったのです。ところが、ペテロは従い、そして、同じように他の弟子たちもイエスに従った、つまり、イエスを信じていたゆえに、永遠の祝福が約束されたのです。

トーマス・シュレイナーという神学者は「パウロのこの信仰についての考えは、イエスの主権に対する降伏と誓約が常に含まれる。パウロにとっての信仰は、ただ単なることばによる同意ではなく、心からの神への服従を必要とする。」と、今私たちが見ているその通りです。ことばで「私はイエスを信じます」と言っても虚しいことです。ことばで「イエスは神です」と言っても虚しいことです。問題は、私たちが心からこの方に服従しようとしているかどうかです。シカゴのムーディー教会の牧師であったウォーレン・ワーズビーは「本物の信仰は意志に触れなければならない。従って、変えられた生活を生じる。」と言います。神が救ってくださったなら必ず変化が出て来ます。なぜですか？私たちは私たちの意志が含まれている心でもって、「私は主イエス・キリストを私の王として私の主として従って行く」という決心をしたからです。神はその人を変えてくださるのです。

ですから、パウロはこのように言うのです。「確かに、メッセージを語っても人々は信じないでしょう。期待しているような成果が出ないかも知れない。しかし、あなたの責任は、神が与えられたその働きに対して忠実に歩むことです。忠実にその働きを為して行きなさい。」と。

２．忠実に語る　：　神から託されたメッセージ　　１７節

主に対する忠誠だけでない、この主が託されたメッセージに対する忠誠心がいると言います。

（１）メッセージの内容

１７節には「**そのように、信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。**」とあります。「**信仰は聞くことから始まり**」と、パウロはそのことをずっと教えて来ました。だから、「語る人」が必要だと。そして、語る人は彼らが間違いなく救いに至るように、正確に正しいメッセージを、真理を語らなければいけないのです。その真理とは「キリストについてのみことば」です。何のことでしょう？もうすでに私たちが見て来たように、救いをもたらすメッセージ、福音のメッセージ、それは「イエス・キリストがだれであり」、「イエス・キリストが何をしたか」です。イエス・キリストの死であり、イエス・キリストの復活です。私たちはそのメッセージを語るのです。私たちが考えていることや人の話ではありません。私たちが語らなければならないメッセージは「イエス・キリストの死と復活」です。それがメッセージの内容です。

（２）救いのメッセージ

そして、パウロはこのメッセージを聞くことによって人が救われると言います。「福音を聞くこと」と「救い」とを結びつけているのです。だから、出て行って語らなければいけないのです。語らなくても神が救ってくださるのではないのです。神は私たちのような者を使って、私たちがメッセージを語ることによって、それを聞いた者たちがこの救いに与るようにと働かれるのです。ダグラス・モーという神学者は「人々が救われるためには福音のメッセージを聞くことが絶対的に必要であるというのは、現代の宣教活動を推し進めて来た偉大な力の一つである。その働きは１８００年代の初めに始まり、今日においても盛んである。しかしながら、福音宣教と救いとのつながりが多くの教会や教団において分離されている。そして、様々な理由から教会は宣教への熱意を失ってしまった。」と言っています。つまり、このメッセージを語らなければ、この福音のメッセージを人々に語らなければ人々は救われないと思っている人たちは、出て行って語ろうとします。でも、ある人々、ある教会、ある教団は語らなくて

も神が救われると言い、出て行って語ろうという宣教の熱意が冷めている。そのようなことが起こっていると言うのです。また彼はこう言います。「神のみことばを宣べ伝えるために人々を派遣することは、この世の果てにまでみことばをもたらすために神が選ばれた方法である。２１世紀の教会はこの神学を抱き、確実に増える多くの攻撃からこれをしっかりと擁護することが必要である。私たちはまたこの神学を実践に移すことが必要である。そうすれば、再び宣教師を派遣することが教会における優先事項となるからです。多くの教会が宣教以外のことに献金を使っている。私たちは自分たちの問題や可能性にばかりに没頭するといった内側のことばかりに目を向け、みことばを一度も聞いたことがない何百万人のことを、また、彼らに御国への道を示すことにより、神に栄光をもたらすというすばらしい可能性をないがしろにしている。」と。

《結論》

私たちがしなければいけないことは、皆さん、出て行ってこのすばらしい救いのメッセージを伝えることです。なぜなら、この世はこの「救い」というすばらしい神からの賜物があることを知らない人たちが溢れているからです。この働きに神によって特別に選ばれた者、遣わされた者でなくても、私たちは主イエスを信じる者として、福音を忠実に語り続けることが必要です。イエスは弟子たちに、そして、私たちにこのように言われました。ヨハネ２０：２１**「イエスはもう一度、彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わしたように、わたしもあなたがたを遣わします。」**と。そして、神が選ばれた方法は、あなたや私を使って、宣教師というタイトルがついてなくても、私たちは出て行ってこんなにすばらしい救いがあることを人々に語ることです。宣教師もそれをします。私たちは宣教師を送ることが必要です。私たちはこの堺だけでなく、大阪だけでなく、日本だけでなく、全世界に出て行って、主が私たちにこの「福音を語れ」と言われたのですから、その務めを益々推し進めて行くことが必要です。

しかし皆さん、すべてはあなたから始まります。あなたがそのような思いを持って、今日出て行くかどうかです。確かに、宣教師を支援することは必要です。宣教師を送ることは必要です。でも、もし、あなた自身の中に出て行ってキリストのすばらしい救いを語ろうという思いがなかったら悲劇です。まず、私たちが変わらなければいけません。まず、あなたが変わることです。神が望んでおられること、それはこのすばらしい救いを宣べ伝えることです。結果がどうあれ、このすばらしい救いを伝えるために神はあなたを救ってくださったのです。信仰者の皆さん、私たちは出て行かなければいけないのです。語り続けなければいけないのです。一人のたましいが救われるためにその苦労はいとわないのです。そのために私たちは生きているのです。出て行って、このキリストのすばらしい救いを語り続けて行きましょう。主はそのことを私たちに望んでおられます。

《考えましょう》

１．あなたは家族や友人のために祈り、福音を語っていますか？
２．福音を語るときの妨げを挙げてください。
３．その妨げに勝利するためにあなたが行なっていることを教えてください。
４．イエスを主として生きる生き方を具体的に説明してください。